

# The Hop Step Times

June 2023

## The Introduction of Group Presentation (グループプレゼン紹介 送別編)

4月26日(水)、グループプレゼン発表会にて、新人スタッフA氏と4月末で卒業されるスタッフB氏の歓送迎企画を行った。ここでは送別会を取り上げる。

本プログラムの目的は、職場を想定した1か月間のグループワークと終了後のフィードバックを通して、利用者が自身の思考のクセに気づき、自己理解を深めるものである。

4月はスタッフ両名のサプライズのために、公式課題としては休職要因の類型化のブラッシュアップを、水面下での課題として、歓迎会・送別会の企画を2グループで準備する内容であった。そのため、ご両名に悟られないよう不在時を狙う制約付きという点で、過去にはない難しさがあった。

結果として、公式課題はもちろん、歓送迎会もご両名のサプライズに無事成功した。送別会では、ゲー

ム・スケッチブックリレー(通所者とスタッフからのメッセージ)・祝辞・集合写真などを通して、皆の感謝の気持ちを伝えられ、B氏に感動していただくという目的も達成できた。

本紙ではスタッフ送別会を担当したグループメンバーであるC氏に1か月間の感想をインタビューし、以下のコメントを入手した。

「今回のプログラムでは、自分のクセ(任せられやすい、断りにくい)がある中で、上司から、『スタッフ分を作成するから、もう一日スケッチブックを貸して欲しい。』と頼まれた。その際、安請け合いをしそうになったが、計画が遅れると考え、スケジュール調整の交渉をした。その結果、上司から時間内で別室を貸してもらうことができ、そこで制作に専念できた。これまでは交渉することができなかったもので、自分でも驚いている。また、今回の結果で自分が楽になれる実感、経験をえた。」



※送別会の祝辞を読み上げるシーン。 右が卒業されたB氏

自身のクセを把握し、過去の経験を活かしていつもと違う行動をとれたC氏。その結果、自身の負担を大幅に減らす体験ができた。同時に、自身の課題を再認識する機会にもなり、今後のほっぷでの活動に繋がられる良い1か月だったと思う。

筆者自身も相手を気にし過ぎるクセが出てしまい、指摘を通して新たな気づきを得られた。本プログラムで得た貴重な経験を通所者それぞれが今後のほっぷでの活動に活かし、再就職や職場復帰に繋げることができればと思っている。

## The Introduction of Group Presentation (グループプレゼン紹介 歓迎編)

4月26日(水)、グループプレゼン発表会にて、新人スタッフA氏と4月末で卒業されるスタッフB氏の歓送迎企画を行った。ここでは歓迎会を取り上げる。

今回、利用者は“Event Planner”として、企画～当日の運営までを担当した。歓迎会はメインイベント、祝辞から構成され、担当グループは当日に備えアイデアを出し合う日々であった。

本プログラムは「各自が役割意識を持ち、協議して目的を達成する。A氏に心から喜んで頂く。」をコンセプトに担当グループが議論を重ねあった。本プログラムの苦心した点は、A氏に計画がバレてはいけない事であった(例:ご本人の近くでイベントの話し合いや大声は控える等)。結果、当日まで超極秘事項を厳守することができた。

メインイベントはストラックアウトと題し、No.1～No.9までのマスにA氏にボールで当ててもらい、番号に応じて利用者の出し物が披露されたり、プレゼントが贈呈される内容であった。

出し物担当者は自慢の趣味(コレクション、武術)、エピソード紹介、一発芸等を準備して、番号が当たった時に備えてドキドキしていた。

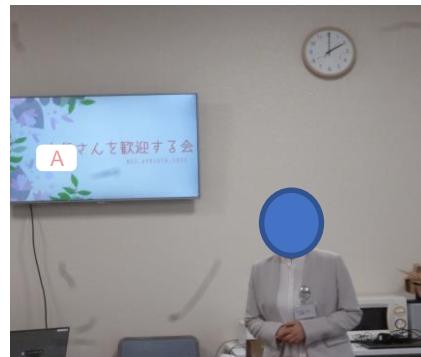
コレクション紹介、紐を使った一発芸、プレゼント贈呈で盛り上がり、心のこもった温かい祝辞で、何よりもA氏にはサプライズであった事が達成感を覚えた。A氏には利用者一同を知ってもらい、親近感が増した日であった。

本プログラムを通じて企画の協議、当日のMC、タイムキーパー、出し物、プレゼントの贈呈、祝辞等で各自が役割を遂行できたと感じている。

また、プログラムとしてもよい気づきを得られた。初めてグループプレゼンに取り組んだD氏はこう語る。「今回のプログラムで印象に残ったことは“みんなのベクトルが同じ方向であったこと”に驚いた。会社ではあまり経験できないことであったから。特に感じたことは、コミュニケーションをとりながらでないと物事が進まないこと。会社だと単独で仕事をしがちになるから。」

以下はA氏からのコメントである。「ほっぷ利用の皆さん、素敵な歓迎会ありがとうございました。皆さんのことを知る良い機会となりました。これからよろしくお願いいたします。」

心温かいA氏へ『これからも、なにとぞよろしくお願いいたします。』の気持ちでいっぱいであるとともに、自分たちもA氏と一緒に成長出来ていたらと思えた良い機会であった。



↑歓迎されたA氏

## The Message from Graduates Ms.B (卒業生スタッフB氏からのメッセージ)

本紙は某日、4年間スタッフとして見守ってこられたB氏のご異動されるということでアンケートを実施した。本記事ではアンケートの中から、以下のQ&Aを抜粋し紹介する。

Q1. ほっぷでの思い出深いエピソード(プログラム内外問わず)を教えてください。

A1. ① 2年目の秋頃、休職しかけたこと。スタッフの異動などストレスになっていたことで、利用者さんに心配されるくらい病んでおりました...

当時は他罰的で被害者意識が強かったのですが、今振り返ると私の悪いクセが出ていたなあとしみじみ思えます。実は事例検討の「Qさん」は2年目の私がモデルです!(笑)

② 初めての企業訪問で書記なのにメモを取り損ねたこと。「今晩をごそしてもいいの?!」「いつメモを出せばいいんだ!?!」とパニックになっているうちに会議が終わってしまいました。

もちろん帰りの車であの方に「社会人失格!」と怒られてしまいました...。今でもたまにいじられるエピソードです。

③ 初めての担当の方が卒業した時のこと。「利用中にあまり言えなかったけど感謝しています」と言ってもらえてじーんとなったことを覚えています。

Q2. 最後に、利用者に向けたメッセージをお願いします。

A2. 4年間色々な活動を経験してき

て、一番大切だと思ったのが“焦らないこと”です。焦って作業する人、焦って職場復帰する人は見ていて心配が多いです。

家族のこと、お金のこと、残してきた仕事のことを思う皆さんの気持ちもわかります。

...が!「再休職せず長く働くこと」を目指すなら、まずは目の前のことを整理してみましよう。長い人生の中のほっぷは、ほんの一瞬、一部だと思えます。焦っているときこそ一旦止まって目の前のことをひとつずつ拾ってほしいなあと考えています。遠いゴールを目指して常に全力で走るのではなく、ときにはゆっくり一歩ずつ進んでみてもいいのではないのでしょうか?「こんないいもの落ちてたんだ!」なんて気づきがあるかもしれません。

では最後に、ほっぷが皆さんの人生の中で、“あってよかった場所”になりますように!異動先からみなさんのご健康とご活躍を願っています。卒業報告も待っています!!ぜひ来てください。

いつもほっぷ利用者のことを優しく見守り、相談されれば相手を肯定しながら道筋を示してくれたB氏。面談の中で優しく筆者の考えを聞きながら的確な助言をいただいたので、筆者自身も自己理解を進められ、とても助けられた。

新たな職場でも持ち前の優しさを活かしB氏が活躍されることを願う。